



新開小だより

～太陽のように ひまわりのように～

学校教育目標

かしこい子
心ゆたかな子
たくましい子

令和6年度6月号
児童数 399人



「一人一つで400個 一人二つで800個」
「どの子もみんな一分の一」と「幸せづくり」



ブログ更新中

校長 八代 剛

色とりどりの紫陽花に、梅雨の訪れを感じる季節となりました。先日のぼかぼか遠足では、6年生が縦割り班のリーダーとなり、班員を率いて活躍する姿がたくさん見られました。6年生のみならず、どの学年も下級生と手をつなぎながらひまわりのような笑顔で、たくさん甘えられながら太陽のように温かく交流する様子に心が温まりました。当日は、多くの保護者の方の見守りもあり、大きな怪我なく安全に実施することができました。朝早くからのお弁当の準備等もありがとうございました。子供たちにとって、とても思い出深く素敵な遠足になったことと思います。

さて、この話は先日のお話朝会でも子供たちに話しましたが、ぼかぼか遠足の公園オリエンテーリングをしている中、袋を持ち、何かを拾いながら活動している二人の子供がいました(私は活動後に報告を受けました)。何をしているのかと職員が尋ねたところ、

「いつも来ている公園だから、ごみを拾っているのです。」と。その手には、たばこの吸い殻や紙くずなどのごみが袋いっぱいに入っているのです。私は、その報告を聞いたとき、ある人物の行動を思い出しました。

それは、メジャーリーグで大活躍しているロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平選手です。以前、彼がよくごみ拾いをしているとい

うニュースを見たことを思い出しました。グラウンドにごみが落ちていたり、練習中も試合中もすぐにごみを拾うのです。なぜ大谷選手はそんなにごみを拾うのでしょうか。それは、「だれかが落としたごみ(運)を拾って、自分のツキ(運)にしている」

と取材の中で答えていました。これは昔からの習慣で、今でも続けているそうです。

落ちているごみを拾うということは、簡単のように見えて、なかなか難しいことかもしれません。それでも、大谷選手や遠足でごみ拾いをしてくれた子供たちのように一人一つ落ちていたごみを拾っていけば…。新開小学校には399人の子供たちがいて、教職員もたくさんいます。一日に一人一つごみを拾えば、400個以上のごみが無くなり、一人二つ拾えば、その倍の800個以上。そしてそんなことが毎日の習慣になれば、どうでしょう。教室、廊下、昇降口…学校中で、ごみが無くなっていくのではないのでしょうか。

そんなことに気付かせてくれた二人は5年生。私もその姿から大切なことを学び、私自身もごみ拾いをしていきたいと思いました。よく、「掃除は、自分の心をきれいにする」と言われます。きっとごみ拾いをしてくれた二人は、きれいな心の持ち主で、そんな二人がいる新開小学校では、あちらこちらで子供たちがきれいな心で光り輝き、幸せいっぱい包まれているのではと期待します。

☆令和6年度における教科書展示会のお知らせ

小・中学校で使用される教科書の展示会が開催されます。詳細は本校ホームページを御覧ください。

